

委員会行政視察報告書

委員会名	空港等まちづくり対策特別委員会
出席委員等	谷 展和 委員長 南 良徳 副委員長 古谷 公俊 委員 梶本 茂暎 委員 木下 豊和 委員 竹田 光良 委員 成田 政彦 委員 松本 雪美 委員 堀口 武視 議長 (随行：議会事務局 川口哲生)
実施年月日	平成28年5月23日(月)～24日(火)
視察先	北海道 北広島市(5/23) 北海道 江別市(5/24)
視察項目	北広島市：まちづくりについて(定住促進) 江別市：まちづくりについて(商店街産業活性化)
視 察 内 容	
●北海道北広島市(5月23日)	
<p>北海道北広島市議会事務局 仲野局長から歓迎の挨拶を受け、議会事務局 佐々木主査より江別市の概況について、さらに政策推進室 橋本企画課長より視察項目である「まちづくり(定住促進)について」説明を受ける。</p> <p>市の概況としては、平成4年に人口が5万人を超えたことを受け、平成8年9月1日に道内33番目の市として「北広島市」が誕生する。</p> <p>位置、面積としては、石狩平野の中央に位置し、北西には札幌市、北には、江別市、東には、長沼町と南幌町、南には恵庭市があり、JR北広島駅は、札幌駅と新千歳空港駅の中央に位置し、快速電車を利用すると札幌駅まで16分圏内であり、総面積は、119.05平方キロメートル。地形は、南西部にある島松山(429.9m)付近を除くと、標高100m前後の丘陵が各所にあり、起伏に富んだ「まち」であると説明を受ける。</p> <p>視察項目である「まちづくり(定住促進)」について、</p> <p>①定住促進の助成制度：ファーストマイホーム支援制度については、北広島市に自ら居住するための住宅を購入する者に対して助成金を交付することにより、定住者の増加を図ることを目的とし、北広島市内にはじめて住宅(新築、中古を問わない)を購入し所定の要件を満たす者に50万円を交付するものであり、交付決定してから3年以上住むことが条件となっているとのことでした。また、PRについては、JR千歳線の駅舎にチラシを掲示、建設業協会やハウスメーカー、さらには、金融機関への情報発信をおこなった結果、平成26年度は50件(新築19件、中古31件)×50万円=2,500万円、189名の定住効果、平成27年度は、166件(新築96件、中古70件)×50万円=8,300万円、606名の定住効果があったと説明を受ける。</p> <p>②おためし移住：北広島市に移住を検討する人に対し、市内における生活を体験する機会を提供することを目的としており、対象者としては、20歳以上の方とその家族で、モニター発信をすることができる方で、さらに、利用料としては、4月～9月：66,000円/月、10月～3月：82,000円/月、(光熱水費含む)であり、利用実績としては、</p>	

平成26年度は、4組（9名）、平成27年度は、12組（27名）と説明を受ける。

③特色あるまちづくりとして、総合計画における「まちづくり」のテーマである「自然と創造の調和した豊かな都市」と都市像（希望都市・交流都市・成長都市）の実現に向け、3つの施策の取り組むものとして、はじめに、「定住人口の増加」のため、住み続けたいまち北広島の魅力を発信し、子育て支援や教育環境の充実に取り組み、次に「地域経済の活性化」として、活気のある産業の創造をめざし、地域資源を生かした雇用の創出や産業の振興など、地域経済の活性化を推進する。さらに、「安全で安心なまちづくり」のため、東日本大震災の教訓を踏まえ、様々な防災・減災対策に取り組むとともに、橋や道路の適正な維持管理、老朽化した公共施設の改修などを進めると説明を受ける。

④今後の取り組みと課題としては、北広島市では、順調に増加してきた人口が、全国平均を下回る出生率や高齢化の進行、東京圏や札幌市への人口流出などにより、平成19年をピークに緩やかに減少していることから、総合戦略において、人口減少という厳しい状況を直視し、その克服に向けた対策を先送りすることなく、人口減少問題に対する認識を市民と共有し、ともに知恵を出し合い一体となって取り組むこととしており、昭和45年に造成が開始され、これまで北広島市のまちの発展をけん引してきた北広島団地について、国の地方創生加速化交付金を活用して、再び、まちの発展をけん引する地区として成長することをめざし、団地活性化のため、「北広島団地フェニックスプロジェクト」を推進する予定であると説明を受ける。

※プロジェクトの主な内容としては、住宅施策（子育て世代マイホーム購入サポート、住み替え支援事業）、教育施策（小中一貫教育推進事業）、まちづくり施策（立地適正化計画策定事業、北広島団地イメージアップ事業）、公共交通施策（生活バス路線利用促進事業、公共交通網形成計画策定事業）

以上の説明を受け、質疑に入りました。

質疑としては、

1. ファーストマイホーム支援制度を利用して移住された方の職業について、把握しているのか。

職業等については、特段、申請書等には記載する欄を設けていないことから把握はしていないとのことでした。

2. 市内に、工業団地が6か所あるということであるが、働いている方の市内での居住状況は、又市内から雇用を促進するための企業への働きかけはおこなっているのか。

工業団地へ進出した企業が、市内に居住している人を雇用した際には、助成金等の措置をおこなっているところであり、総合戦略の男女共同参画推進事業（ワーク・ライフ・バランス推進）の中で、出産や子育てによりキャリアブランクのある女性の再就業支援のため「働きたい女性のための再就職支援事業」として、取り組んでいるとのことでした。

3. 北広島市に移住を検討する方に対し、生活を体験する機会を提供することを目的として実施している「おためし移住」に際し、何か、北海道の寒さ対策等についてアドバイスはおこなっているのか。

「おためし移住」の際には、特に冬の生活を心配されている方が大半であり、例えば、今年の2月に、大阪の方がこの制度を利用された際には、雪と寒さで外出できるのか心配されていましたが、施設が駅から近く、車がなくても公共交通機関を利用できたこと。

また、室内に入れば、非常に暖かく快適に過ごすことができたことから充実した内容であったとの感想を聞いているとの説明がありました。

4. 地域経済の活性化を目的として進めている「輪厚工業団地の分譲」について、91%の契約ができたとのことであるが、仕事が人を繋げるといことは非常に大事なことと考えるが、企業を誘致するための条例等は制定しているのか。

工業団地に進出してきた企業に対し、税の減免や設備等について助成等を行なうことができる企業誘致促進条例を制定しているとのことでした。

5. 北広島団地フェニックスプロジェクトの教育施策として、「小中一貫教育推進事業」とあるが、その内容について説明を求める。

小中一貫教育推進事業については、平成30年度から事業実施を予定しており、現在は、準備段階であると説明を受けました。

以上が、質疑の主な内容であり、北広島市における視察の概要となります。

●北海道江別市（5月24日）

北海道江別市議会 三角議長からの歓迎の挨拶を受けた後、視察案件に従い、商工労働課根廻参事（商店街・観光振興担当）、丸山主査より説明を受ける。

はじめに、江別市の概要としては、昭和29年に北海道で17番目の都市として市制を施行し、平成3年11月には、人口10万人都市となる。（面積は187.38km²）

地勢としては、石狩平野の中央部に位置し、南端部の標高93.0mが最高で、最低は北東（豊幌お茶の水排水機場付近）の湿地帯で2.5mと全般的に平坦な地勢を形成している。主流の石狩川が市の北東部から流入し、夕張、千歳、豊平、篠津などの支流河川を合わせて北西部の石狩へ流れている。これらの流域と低地に広がる泥炭地は基盤整備や土地改良により、肥沃な水田酪農地帯を形成している。

平成21年7月に市民と共にまちづくりを進める自治基本条例が施行され、平成26年4月からは、「えべつ未来づくりビジョン」（第6次江別市総合計画）がスタートし、将来都市象を同条例の基本理念に基づく「みんなでつくる未来のまち えべつ」と定め、江別市に関わるすべての人や団体と協力して、将来にわたって安心して暮らせる、活力のあるまちづくりを目指していると説明を受ける。

視察項目である「まちづくり（商店街活性化等）」について、

- ①江別の顔づくり事業：都市を中心とした南北市街地の一体化による「コンパクトな市街地形成」、都市機能（交通、環境、居住、商業等）の充実による「中心市街地活性化」、環境に配慮したまちづくりであり、主な事業概要としては、連続立体交差事業として、鉄道を高架化し、踏切除去及び鉄道交差道路整備により、南北市街地の発展と交通の安全性向上、円滑化を図るとともに、連続立体交差事業に併せて、市内駅周辺土地区画整理事業及び街路事業を行なうことを目的として実施している説明を受ける。

- ②江別市商工業活性化事業補助金：補助対象事業としては、共同施設等の整備に係る直接事業費及び取得費を補助する「共同施設整備事業」「小売商業店舗共同化事業」、施設整

備に係る直接事業費及び土地取得費を補助する「商店街来客利便施設整備事業」、「商店街景観向上施設整備事業」、施設整備に係る工事費及び整備費を補助する「商店街共同顧客サービス導入事業」、事業実施に必要な直接経費を補助する「研修・研究活動事業」、「地域資源による製品等開発事業」、「共同情報発信事業」等々があると説明を受ける。

③商店街参入促進事業：大型店の寡占化や消費活動の多様化などにより、市内商店街の衰退が顕著となり、人口減少、少子・高齢化が進展する中、商店街に地域コミュニティの担い手としての役割が求められていることや今後5年のうちに、「団塊の世代」の定年延長期間が終了し、就業生活から本格的にリタイヤする時期を迎え、65歳以上の高齢者が全人口の3割を占める見込みとなっていることから、マンパワーを活用し「商店街」を活性化させるため、様々な世代が商店街に関する事業に参画しやすい仕組みづくりが急務となっている。このようなことから、商店街関連の各種支援制度や選考的な成功事例を紹介する実践的なセミナーの開催や参画希望者毎の具体的な要望に対応するためのサポート事業を実施すると説明を受ける。

④集合煙突用の土管を主体に暗きょ用素焼土管などを製造していた地元企業の工場跡地を地元製品の販売や、まちの魅力発信、イベントの開催など、多くの機能を持たせた商業施設「エブリ」(江別 (EBETSU) とレンガ (BRICK) の造語で、音感として毎日「every」と重なり、毎日何かのできごとがあるを意味する。)が本年3月にグランドオープンを迎えていることから、運営状況について説明を受ける。

以上の説明を受け、質疑に入りました。

質疑としては、

1. 野幌駅周辺地区商店街活性化推進事業で平成28年度予算として、振興組合への委託料として、4,008千円、改装費3,000千円、家賃補助300千円とあるが、この補助基準は。

この補助制度については、「顔づくり事業」に伴うもので、野幌地区のみ限定の補助事業となっており、内容としては、商店街振興組合が活性化に必要と認めて、誘致をしたテナントに対して支払う仕組みになっており、この補助金の場合は、契約の段階で2年以上継続して営業することが補助金交付の条件となっているとの説明を受けました。

2. 平成18年11月に発足している野幌駅周辺地区活性化協議会の内容について説明を求め。

野幌地区の振興組合、商工会、料飲店組合の商業3団体、さらに周辺の自治会等で組織されており、その活動については、平成28年度ではベンチを造るなどのまちづくり活動を行なっているとの説明を受けました。

3. 江別市の姿として、工業の盛んなまちということで、単なる札幌のベットタウンではないイメージをもっているが、まちのめざすべき方向性は何か説明を求め。

大都市、札幌までJRで約20分程度と他市に比べて交通の便が良いこと、又地価も比較的安いことから、人が集まってくる傾向にある。さらに、市内にある大学の学生さんに江別市に残って、就職等(起業家)をしてもらえるような仕組み等を考えているとのことでした。

4. 野幌駅周辺土地区画整理事業で、平成27年末現在、仮換地指定は、全体111筆のうち、94筆（約85%）、物件移転は、全体92棟のうち82棟（89%）となっているが事業そのものは、進んでいるのか。また、野幌商店街の進捗は。

区画整理事業で行っている野幌駅周辺については、事業が殆ど終わっているが、野幌商店街については、街路事業として取り組んでおり、移転の際、補償が全額でないこともあり、進捗状況として、順調に進んでいるとは言い難いが、殆どの店舗で、同じ業種形態で徐々にではあるが移転が進められている状況であるとの説明がありました。

5. 学生が商店街に参画しやすい仕組みづくり、企画等はおこなっているのか。

商店街の担当として、行なっている事業もあれば、企画担当の部署で、今年度から学生連携の担当のセクションを新たに設けたところであり、学生の江別市への定住等も含めて、いろいろな仕組みづくりについて、考えていきたいとの説明がありました。

以上が、質疑の主な内容であり、江別市における視察の概要となります。

■総括

視察については、時間的配分の厳しい日程の中、実施しましたが市の担当職員による説明に対し、委員から活発な質疑が行われ全体的に充実した内容であり、十分に所期の目的を達成することができました。

今回の視察により得た内容については、今後の市政に反映させるとともに、市の発展につなげていきたいと考えております。

上記のとおり報告いたします。

平成28年5月30日
空港等まちづくり対策特別委員会
委員長 谷 展和

(北広島市)



北広島市議会 佐々木主査より市の概況について説明



泉南市議会 谷委員長 挨拶



北広島市 橋本 企画財政部 政策推進室 企画課長 説明



質疑応答



質疑応答



北広島市役所前

(江別市)



江別市議会 三角議長 歓迎の挨拶



泉南市議会 谷委員長 挨拶



江別市 根廻 商工労働課参事、丸山商工労働課主査より説明



質疑応答



質疑応答



江別市役所前